

2008 年 3 月 31 日

## 情報システムユーザースキル標準（U I S S）Ver.1.2 について

独立行政法人 情報処理推進機構 IT人材育成本部  
ITスキル標準センター

独立行政法人 情報処理推進機構(略称:IPA、理事長:藤原武平太)は、2008 年 3 月 31 日より、「情報システムユーザースキル標準（U I S S : Users' Information Systems Skill Standards）」の新バージョンとなる「情報システムユーザースキル標準（U I S S）Ver1.2」を

IPA ITスキル標準センターのWebサイト上(<http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss>)で公表しました。

この度公開した Ver1.2 では、各企業において、UISSの導入・活用をしやすくすることを主眼に、U ISSについて寄せられた意見・要望への対応、業界・企業を取り巻く環境変化への対応など、全般にわたる見直しを行っています。

また、経済産業省構造審議会情報経済分科会情報サービス・ソフトウェア小委員会人材育成ワーキンググループの報告書<sup>1</sup>に対応するための今後の改訂方針を織り込んでいます。

今回公表するのは、U I S S 本体である、「情報システムユーザースキル標準～IS 機能の可視化による組織力向上のために～Ver.1.2」です。

なお、2008 年 10 月にはレベル 1 ～ 4 の評価手段として情報処理技術者試験の位置づけを明確化させた次バージョンを公開する予定です。

### 【改訂の経緯】

U I S S は、企業における情報システム（I S）活用を取り巻く課題解決に資するものとして、経済産業省から 2006 年 6 月に初版公開、2007 年 6 月に第一回目の改訂が行われています。今回が第二回目の改訂となりますが、I P A から社団法人日本情報システム・ユーザー協会（J U A S）に委託して改訂が行われました。

今回改訂に向けて、各企業において本スキル標準の導入・活用をしやすくすることを主眼に、U I S S について寄せられた意見・要望への対応、業界・企業を取り巻く環境変化への対応など、全般にわたる見直しが行われてきました。こうした中、2007 年 7 月 20 日に産構審報告書が取りまとめられました。

I T スキル標準センターおよび J U A S では産構審報告書の施策の具現化に向けて対応することとし、情報処理技術者試験をキャリアレベル評価に活用するための方向性を織り込んだものが今回公表する U I S S Ver1.2 です。

### 【U I S S Ver1.2 改訂のポイント】

#### （１）I S 機能の再検証と不足する機能の追加

- ・ I S 機能全般を検証して、I S 機能の追加および整理統合、機能間の関係見直しを行っています。
- ・ I T ガバナンスの観点から C O B I T（Control Objectives for Information and

<sup>1</sup> 経済産業省産業構造審議会情報経済分科会情報サービス・ソフトウェア小委員会人材育成ワーキンググループの報告書  
「高度 I T 人材の育成をめざして」（2007 年 7 月 20 日とりまとめ）：  
<http://www.meti.go.jp/press/20070720006/20070720006.html>

related Technology) を参照し、タスクフレームワークならびに機能・役割定義の修正を行っています。

(2) 本スキル標準が参照する I T スキル標準との関連の具体化

- ・ 機能・役割定義において、各 I S 機能に求められるスキル・知識項目の対応を整理しています。

(3) 情報処理技術者試験 新試験制度との整合化のための今後の改訂方針の織り込み

- ・ レベル評価手段として情報処理技術者試験の活用（レベル 1 ～ 4）についての方針を明確化しました。

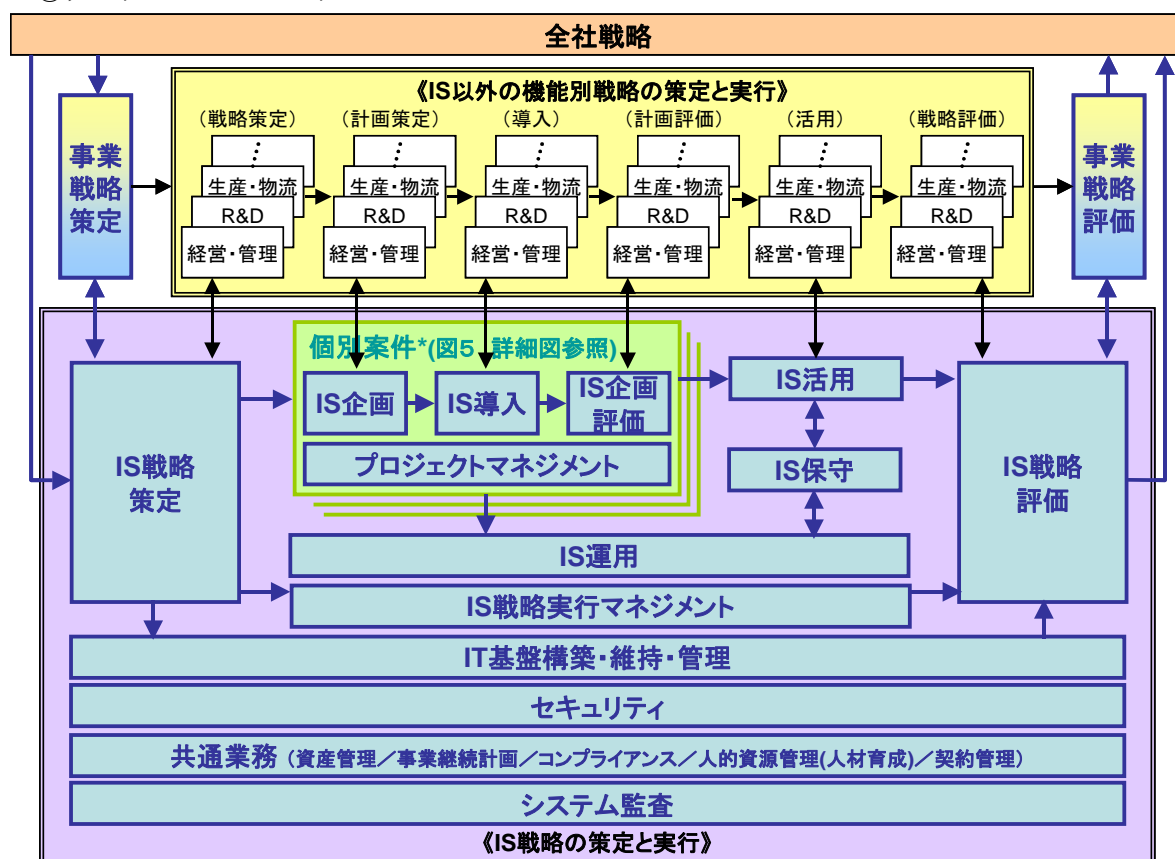
# (1) IS 機能の再検証と不足する機能の追加

IS 機能のあるべき姿や各企業から寄せられた意見・要望を勘案し、U I S S で定義する IS 機能全般を検証して、IS 機能の追加および整理統合、機能間の関係見直しを行い、タスクフレームワークならびに機能・役割定義を修正しました。

特に、今回の改訂では、新会社法や金融商品取引法の施行に伴い、企業における内部統制の充実が求められる中、IT ガバナンスの観点で IS 機能の検証が必要であることから、これを実施するにあたり、「COBIT 4.0 日本語版」(米国 IT ガバナンス協会=作成/日本 IT ガバナンス協会=訳)を参照しました。

「タスクフレームワーク」は、企業における IS 機能について、事業戦略を中心に経営的観点から体系的に整理したものです。U I S S の範囲と位置付けを明確化するために、タスクフレームワークでは IS 以外の機能との関連性についても表現しています。

◎タスクフレームワーク



「機能・役割定義」は、タスク概要の各 IS 機能を 3 段階で分割・詳細化し、それらを実現するために必要なスキル、知識を対応付けて一覧化したものです。大項目は、IS 機能として責任範囲を明確にすべき単位となるもの(タスクフレームワークにおける「タスク」とほぼ同義)としています。

機能・役割定義の一部抜粋を次にしめます。

◎機能・役割定義（抜粋）

IS 機能				スキル	知識項目
番号	大項目(タスク)	中項目	小項目		
2	IS 戦略策定	対象領域ビジネスおよび環境の分析	対象領域ビジネスのプロセスレベルでの理解	ビジネスモデルをビジネスプロセスのレベルで正確に捉えることができる ビジネスの全体像を最上位レベルでモデル化し、描くことができる	ビジネスプロセス ビジネスプロセス分析・表記手法 モデリング
			現行業務(AsIs)の調査・分析	内部環境を正確に捉えることができる 業務上の課題を分析・抽出し、文書化できる 業界内における管理面と業務面を評価し、文書化できる	内部環境の調査・分析手法 企業の一般的な基幹業務 経営管理業務・手法 業務分析手法 モデリング ロジカルライティング
			情報システム(AsIs)の調査・分析	現行情報システムの目的、機能、アーキテクチャ、規模、能力、コスト、保守運用および障害状況を正確に捉えることができる 現状および近い将来に起こりえる情報システムの課題を的確に捉え文書化できる 業界内における平均技術水準を把握できる	情報システム調査・分析手法 情報システム評価手法 ロジカルライティング

(2) U I S Sが参照する IT スキル標準との関連の具体化

機能・役割定義において、各 IS 機能に求められるスキル・知識項目を「IT スキル標準スキル項目対応表」に整理し、両者の関係をより具体的に示しました。

◎U I S Sの機能役割定義と I Tスキル標準の対応表（抜粋）

			U I S S 機能・役割定義 大項目/中項目								
			IS 導入/アプリケーションコンポーネントの分析・設計					IS 導入/アプリケーションコンポーネントの開発			
No	ITスキル標準 職種	ITスキル標準 スキル項目	システム開発 の準備	システム化要 件定義	システム方式 設計(外部設 計)	ソフトウェア設 計(外部設 計)	プログラム開 発/マネジメント	コンポーネント 設計(内部設 計)	詳細設計(プ ログラム設 計)	プログラム実 装	コンポーネント テスト
1	APS	業務分析	○	○	○						
2	APS/ITA	コンサルティング技法 の活用	○	○			○				
3	APS/ITA	知的資産管理(Knowledge Management)活用	○	○			○				
4	APS	テクノロジー		○	○	○		○	○	○	○
5	ITA	テクノロジー		○	○	○		○	○	○	○
10	APS	デザイン	○	○	○						
12	APS	ソフトウェア エンジニアリング	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	ITA	インダストリ(ビジネス)		○	○	○					
15	ITA	アーキテクチャ設計	○	○	○						
16	ITA	アプリケーション アーキテクチャ設計	○	○	○	○					
17	ITA	インテグレーション アーキテクチャ設計	○	○	○	○					

(3) 情報処理技術者試験 新試験制度との整合化のための今後の改訂方針の織り込み

平成 18 年 10 月に産業構造審議会情報経済分科会情報サービス・ソフトウェア小委員会の下に「人材育成ワーキンググループ」(以下、人材育成 WG という) が設置され、我が国の 10 年後を見据えた高度 IT 人材の育成について検討が行われました。検討の結果は、平成 19 年 7 月 20 日に「高度 IT 人材の育成をめざして」(以下、「人材育成 WG 報告書」という) として取りまとめられました。

U I S S においても、「人材育成 WG 報告書」、および、これを受けて抜本的な改訂が検討されている「新試験制度」の方向性を踏まえ、レベル 4 以下のキャリアレベル評価に新情報処理技術者試験を活用する場合は、下記のように考えるものとします。

- ・レベル 4 : 情報処理技術者試験の合格をもって、当該業務分野におけるレベル 4 に必要な知識を修得していると評価する方向で U I S S を改訂します。新情報処理試験の各試験区分と、U I S S で提示する業務機能、人材像との関係を更に検討する必要があるため、次バージョンでその関係を明確化します。
- ・レベル 1-3 : 基本的に情報処理技術者試験の合格をもって、各キャリアレベルを満足していると評価できるように U I S S を改訂します。

なお、キャリアレベル評価に新情報処理技術者試験を活用する場合のキャリアフレームワークと新情報処理技術者試験との関係については次の図を想定しています。

レベル 4 に関しては、前述のとおり、次バージョンでその関係を明らかにします。

◎新情報処理技術者試験とキャリアフレームワークの関係 (試験の活用の方向性)

人材像 レベル	ビジネスストラテジスト	ISストラテジスト	プログラムマネージャ	プロジェクトマネージャ	ISアナリスト	アプリケーションデザイナー	システムデザイナー	ISオペレーション	ISアドミニストレータ	ISアーキテクト	セキュリティアドミニストレータ	ISスタッフ	ISオーデイター
7													
6													
5													
4													
3	AP												
2													
1													

レベル 4 については試験との関係を次バージョンで明確化

基本的に試験の合格をもってレベルを評価できるよう、U I S S を改訂中。

AP : 応用情報技術者試験  
FE : 基本情報技術者試験  
IP : IT パスポート試験

【今後のスケジュール】

2008 年 10 月：情報システムユーザースキル標準（U I S S）次バージョン公開予定  
〈改訂内容〉

- ・ U I S S と情報処理技術者試験との対応づけ
- ・ 組織、個人にとって使いやすいものとなるよう継続的改善